

(ホームページ <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

Vol.36 Feb. 2012



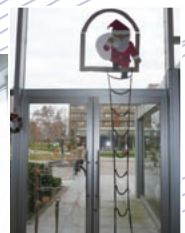
西図書館バイトによる企画展示



メディアセンター北分室スタッフ



中央図書館JTA



中央館クリスマス装飾ボランティア

Contents

巻頭言

- 「紙と電子」… 2
図書館長 富永一登

長期・海外研修報告

- 私立大学派遣研修報告(国際基督教大学) … 3
図書館学術情報普及グループ
東広島地区フロアサービス主担当 塚本絢子
- 英国ラーニングcommons調査研修記 … 5
図書館学術情報普及グループ
東広島地区フロアサービス主担当 和田由季
情報ナビゲーション主担当 日野美穂

研究開発室より

- 研究開発室活動報告 … 8
研究開発室 助教 川和田晶子

平成22年度 図書館活動報告

- 学習・教育支援 … 9
- 学術・研究支援 … 9
- 地域貢献・国際交流 … 10
- 管理・運営 … 10
- 広島大学図書館統計 … 11
- 図書館日誌(2010.4-2011.3) … 12

Hiroshima University Library

Liaison

vol.36
Feb.2012

巻頭言

紙と電子

図書館長 富永 一登

近年、世界では電子ブック、電子辞書が大流行、紙の本は存在感が薄くなってきている。大学の教育研究も電子化に対応しなければ、時代の流れに乗れなくなってきた。古い漢籍を繙くことに始まる私の研究分野でも、電子化の影響は極めて大きく、研究の手段が大きく変化してきている。かつては個々人の記憶量が研究を推進する大きな力になり、評価をも左右していた。今はほとんどの文献が電子化され、記憶とその呼び出しは電子頭脳が担うようになっている。しかし、教育研究の人間の営為を読み解くという本質的なところに変化はない。人間の営みの本質的な部分は変わらないからである。それは、谷川俊太郎の「字と本」と題する詩にも「紙の村が電子の街に変わっても、立ちのぼる意味の気配は変わらない」と詠われている。

今我々が享受している文化の根底には、「紙」の本のもつ手になじむ心地よさとぬくもりを通して育まれてきた人間の貴重な営みが存在している。これは減びることはないし、未来に継承していかななくてはならないものである。国際化が急速に進む中で、人類がより幸せに共生できる未来文化の構築には、世界の各地域で人間が築き上げてきた伝統文化の理解は必要不可欠なのでもある。

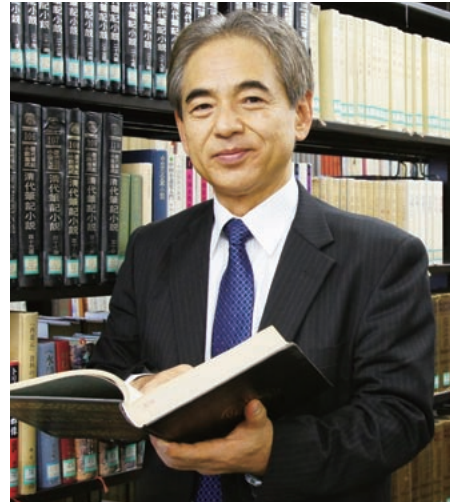
では、「電子」のことは考えなくて良いのかというと、決してそうではない。むしろ積極的に活用していかなければいけない。電子化の流れに背を向ければ、活動を停止した遺跡と化してしまうであろう。図書館は、まさしくこの急速に進む電子化にどう対応し、それをどう活用していくのか問われているのである。しかも、紙の本との共存もはかる必要がある。

実は、この「紙」と「電子」の両者は、決して対立するものではないし、矛盾するものでもない。『老子』に、「万物は陰を負うて陽を抱く」（万物負陰而抱陽）という言葉がある。万物は陰を背中に背負い、陽を胸の前に抱いている、つまり、すべてのものが陰と陽の調和によって成り立っているという。中国では古くから、この世のあらゆるものに宿る陰と陽の二つの気は、対立するのではなく、お互いの長短を補い合い調和することによって、一つ一つのものを円滑に機能させていると考えられている。

電子化の最先端を走る現在の中国で、数百年前の古い漢籍を保存する「中華再造善本」の国家プロジェクトが進められているのをご存じだろうか。加えて、日本など東アジア漢字文化圏に残されている古書も続々と国の助成金で影印出版されている。利便性を追求し、より効率化を求める一方で、不便でかさばり無駄なものとも言われかねない古書を再刊している。しかし、誰もそれを異を唱える者はいない。これは「文」を重んじ、書物を愛する文化の伝統であり、その根底には、『老子』の陰陽調和の精神が息づいているのではないかと思う。これは、大いに参考にできる。

図書館は、「紙」と「電子」を巧みに調和させ、常に最新の情報を提供する電子化に即応しつつ、伝統的文化遺産を未来に継承していき、一人一人の多様な知的欲求を満たすことのできる場にしたいと考えている。

一昨年、中央図書館と東図書館にできたラーニング・コモンズ「BIBLA」が好評である。集団で、個人で、電子機器を自由に使用しながら学習ができる空間であり、時代の要求に応じた新たな試みである。レファレンス、リポジトリの普及、電子ジャーナルへの対応にも力を注いでいる。一方、和装資料室の漢籍の整理も進行中である。これこそ「陰を負うて陽を抱く」精神の実践だと思う。図書館は、利用する人が増えれば増えるほど、多方面にわたる知的サービスが充実する。これが知りたい、あの情報が欲しいという時、静かに自習したい、読書したいと思う時は、是非、図書館を活用願いたい。



長期・海外研修報告

私立大学派遣研修報告（国際基督教大学）

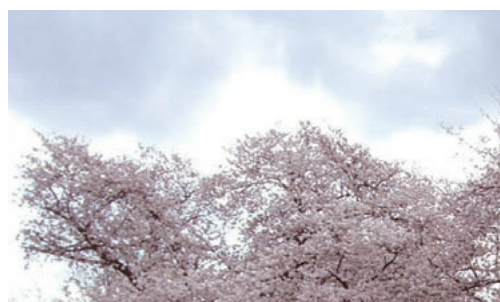
図書学術情報普及グループ 東広島地区フロアサービス主担当 塚本 絢子

・はじめに

平成22年4月から平成23年3月まで、広島大学の派遣型研修の一環として、国際基督教大学での研修へ参加したので、その報告をする。私立大学への派遣研修では実際に私立大学へ勤務し、その大学の職員の方とともに業務を行いながら、私立大学の経営・業務を習得する研修である。前年度は他部局の方が派遣されていたが平成22年度は図書館から私が派遣されることとなった。

・国際基督教大学について

国際基督教大学はリベラルアーツの理念を基礎にメジャー制や1年生からの徹底した英語教育などの特色ある制度をもつ大学である。いわゆる「大学ランキング」でも上位に入っており、高い評価を受けている。都会の喧噪から離れてゆったりした雰囲気のある場所にあり、キャンパスは入った瞬間から美しい芝生と森が広がり、日本離れした雰囲気である。訪れたところはちょうど桜の季節だったので、正門から大学の入り口まで連なる桜並木を見ることができた。1年間の期間中は大学付近の宿舎から通勤していた。



桜 ICU

・業務について

広島大学での業務経験が考慮され、国際基督教大学でも図書館へ配属になった。図書館業務は、貸出・返却などの応対、図書館間の相互利用、参考調査といわれる調べ物や図書館講習会といった窓口で人と接する仕事からシステムの運用・管理、購入図書や雑誌の会計処理や目録まで多岐に渡る。国際基督教大学図書館では、利用者対応業務のうち貸出・返却他の手続きを「ドキュメントサプライセンター」、参考調査、コンピュータの管理などを「レファレンスサービスセンター」で行なっている。私は「ドキュメントサプライセンター」へ配属され、対応業務及び授業参考書の登録作業を担当した。もっとも印象深かったのは、図書の貸出冊数が非常に多いことである。学内の蔵書が図書館に集中していて貸出冊数制限がないことが関係しているだろうが、必要がないものを使うことは、考えにくい。専門分野によって利用傾向が異なるので、貸出冊数のみを価値基準とするのは適切ではないが、卒業論文が必須であることなど資料を用いて文章を書く課題を出されており、彼らが課題のために必要とする資料が適切に整備されているということが図書館の利用率を上げているととらえることができるだろう。



ドキュメントサプライセンター

国際基督教大学では、教員を含め、構成員の多くが日本国籍以外の人間である。広島大学でも多くの留学生を受け入れているが、帰国子女や、北米・ヨーロッパ系の留学生が多く、キャンパスでは英語が日常的に使われていた。もちろん学生は日本語のトレーニングを受けるが、必ずしも窓口に来る利用者が日本語を習得している訳ではない。私はあまり英語が得意ではないので、周囲の職員の方や学生スタッフに助けをもらいながらジェスチャーと片言の英語で何とかコミュニケーションをとった。キャンパス内では、「外国人」という言葉を使わず「ノンジャパ（＝ノンジャパニーズの意）」など英語から来ている独特の略語が多く、職員の方も頻繁に日常会話で使われるので最初のうちは戸惑ったこ

ともあった。研修が終了するころには慣れて何とも思わなくなっていたが、キャンパス全体に流れるグローバルな空気をよく現している言葉だと思う。また、学期も日本で多くの大学が採用している前後期制ではなく、3学期制を採用しているのも特徴的である。広島大学とは全く異なるペースでの業務に当たったことも貴重な体験であった。

・自動化書庫

国際基督教大学では、2000年に別館として開館したミルドレッドトップオスマー図書館の地下階に導入された。日本では国際基督教大学が初めての導入である。

自動化書庫とは、資料をコンテナ内に格納し、コンピュータからの出庫指示により指定した資料を自由に出庫できるものである。自動化書庫の利点としては従来の書架よりも優れた、収蔵スペースの確保と利便性の両立ができることが挙げられる。書庫の狭矮化は図書館職員にとって常に頭の痛い問題である。広島大学でも、収蔵スペースの確保の問題がついて回っている。国際基督教大学ではそれまで、学外の倉庫に預けられていたため、提供までに時間が必要だった資料も自動化書庫への格納により、より早く提供が可能になった。最近は国内でも導入している大学が増えており、どのようなものか、個人的にも気になっていた。見学だけでなく、実際に資料の出庫・入庫作業を行ったり、資料提供までの仕組みを見ることができたのは貴重な体験であった。また、自動化書庫が設置されているミルドレッドトップオスマー図書館（以下オスマー図書館）は、利用者が出入りする部分には書架を配置せず、学生用パソコンとプリンターが整備されている。オスマー図書館は、現在で言うところのラーニングコモンズの機能を持った図書館である。広島大学図書館でもBIBLAがオープンし、積極的に利用されているが、2000年当時、資料だけでなくパソコンなどの機器類も含めた学習空間は、あまり一般的な設備ではなかったように思う。自動化書庫の導入とともに、学習空間の提供というあり方を打ち出した点において、当時の導入者の先見性が感じられる。



オスマー図書館

・研修に参加して

研修では前述の事柄の他にも組織の運営のあり方など様々なことを学ぶことができた。業務経験が浅い上、右も左もわからない状態で来た私に、国際基督教大学の方はとてもよくしてくださり、心から感謝している。国際基督教大学の運営方法が必ずしも広島大学に直接導入できる訳ではないが、図書館を通じた学習支援のあり方や、情報基盤の整備には今後の広島大学図書館のサービスのあり方へのヒントとなった。今後、広島大学へどのように生かすか、ということを考え、実践していくことが、研修でお世話になった方へ報いることになると思っている。

・東日本大震災

平成23年3月11日、忘れられない出来事が起こる。東日本大震災である。東京では帰宅困難者が大勢あふれ、停電や、頻発する余震で眠れない日が続いた。発生時、私は大学の図書館内にいたが、幸い、建物内にいた人間にけがはなかった。大きな地震だと思っていたが、発生後しばらくしてから、実際にニュースを耳にして、ことの深刻さにぼうぜんとした。地震発生からの数日間の余震、当たり前だと思っていた社会のインフラが崩壊するさまや、情報の錯綜による恐怖を忘れることはないだろう。ただ、ただ、亡くなられた方のご冥福と、被災地の一日もはやい復興を願うばかりである。

・謝辞

最後になりましたが、この研修でお世話になったすべての方に心からお礼申し上げます。

参考文献

「大学ランキング」週刊朝日編 朝日新聞社2011年版



外観

英国ラーニングコモンズ調査研修記

図書学術情報普及グループ 東広島地区フロアサービス主担当 和田 由季
情報ナビゲーション主担当 日野 美穂

2010年4月、中央図書館にラーニングコモンズがオープンしました。今では、＜BIBLA＞の愛称で親しまれ、多くの学生に利用されています。このような新しい学習空間を提供するにあたり、海外の事例も参考にしようと、平成22年度国立大学図書館協会海外派遣事業および広島大学後援会国際交流助成事業として英国の大学図書館などを訪問し研修を行いました。

ラーニングコモンズ先進国英国の学習空間とはどのようなものか、その運用実態についてご報告します。また、そこで行われている情報リテラシー教育についても併せてご報告します。

研修の概略

- ・期 間：2010年11月29日から12月7日（9日間）
- ・訪 問 先：シェフィールド大学、グラスゴー・カレドニアン大学、英国図書館、オックスフォード大学ボードリアン図書館
- ・メンバー：広島大学図書館から和田と日野、鳥取大学附属図書館から津村光洋氏の計3名

訪問先決定の理由

シェフィールド大学は2007年にラーニングコモンズを中核とする大規模な独立施設を新設し情報リテラシー教育を熱心に展開していることから、第一の訪問先に決めました。日程も2日間たっぷり取り、施設の見学、模擬ガイダンス体験などのプログラムを用意していただきました。

グラスゴー・カレドニアン大学もまた、図書館機能を含む独立したセンターを2006年に新設していることから選びました。あまり訪問事例がないことも決定理由の一つです。

この2施設との比較のために、英国図書館と伝統的な大学図書館であるオックスフォード大学ボードリアン図書館を選びました。

2大学とラーニングコモンズ

シェフィールド大学とグラスゴー・カレドニアン大学の概略とそれぞれのラーニングコモンズの構成を表1、2にまとめてみました。

表1 訪問大学とラーニングコモンズ

シェフィールド大学	グラスゴー・カレドニアン大学
〈概要〉 英国中部、サウス・ヨークシャー州 シェフィールド市郊外に立地 1905年設立 総合大学 学生数：約24,000人 〈ラーニングコモンズ〉 名称：インフォメーション・コモンズ (Information Commons) 図書館＋メディア施設 独立した地上7階建て 週7日 24時間開館 デスクトップ・パソコン 550台	〈概要〉 スコットランド グラスゴー市内に立地 1875年設立 ビジネス、健康、科学技術の6スクール 学生数：約16,000人 〈ラーニングコモンズ〉 名称：ソルタイヤ・センター (The Soltire Centre) 図書館＋メディア＋学生支援施設 5階建て（地下1階、地上4階） 平日：8:00-23:00 土日：9:00-18:00 デスクトップ・パソコン 400台

表2 ラーニングコモنزの構成

シェフィールド大学〈インフォメーション・コモنز〉			グラスゴー・カレドニアン大学〈ソルタイヤ・センター〉		
Level	色調	施設・特徴	Level	色調	施設・特徴
6	紫	Silent Areas (会話厳禁)			
5	紫	Silent Areas (会話ほぼ厳禁)			
4	黄	グループ室あり	4	紫	Silent Areas (会話厳禁)
3	緑	Silent Areas, グループ室あり	3	緑	Quieter Areas (会話ほぼ厳禁)
2	橙	Silent Areas, グループ室あり	2	黄	Quieter Areas (会話少し)
1	青	IT相談カウンター, グループ室あり	1	赤	入口, グループスタディスペース, セミナールーム, 事務室
0 (地上1階)		24時間警備付きの入口, 図書館相談カウンター, カフェ, 事務室	0 (地階)	青	相談カウンター (図書館利用, 生活支援などなんでも), グループスペース, カフェ

2施設を見学して一番印象に残ったことは、利用形態による空間の住み分け、色分け（椅子や掲示など）が行われていることです。シェフィールド大学では、フロア毎に色調を統一していますが、賑やかなゾーンと静かなゾーンを分けて使用しているフロアもあります。グラスゴー・カレドニアン大学では、フロア毎に明確な住み分け、色分けがされており、トイレの壁の色まで違いました。2施設いずれも最上階は最も静かなフロアで、我々が話をするのさえはばかれるような雰囲気でした。シェフィールド大学は、いくつかのグループ室がありましたが、グラスゴー・カレドニアン大学では簡単なブースやテーブルなどを利用し、グループ学習ができるようになっていました。とても自由な雰囲気で、楽しい学習環境だと思いました。なお、英国図書館もセクション毎に部屋の施設や雰囲気などを変えていました。サイエンスやビジネスの図書室は、他の分野の図書室より馴染みやすく、またグループ室もあり、どこかこの2大学と似ているようでした。



シェフィールド大学 インフォメーション・コモنز 1～4階吹き抜け



グラスゴー・カレドニアン大学 グループスタディスペース

ラーニングコモنزの効果と影響

・利用者アンケートとチェンジ

各施設の責任者の方の説明によれば、現在の施設内の構成は、何回かに渡る利用者アンケートの結果を反映したものだということです。利用者の要望があれば今後も変えていく姿勢をお持ちでした。この柔軟な姿勢はとても参考になりましたし、広島大学の図書館もまだまだ変わってよいのだと勇気づけられました。

・清潔な学習環境

施設を管理する立場から見て一番気になったのは、清掃のことでした。特に24時間開館のシェフィールド大学は、清潔さを保つために、区画ごと立ち入り禁止にするなどして頻繁に清掃をするとのことでした。各フロアに大きなゴミ箱を設置したり、汚れた壁は塗り替えたりと、学習環境を美しく保つための努力が続けられています。

・利用状況

2施設とも多くの学生が利用していました。ちょうど寒波が到来した日でもあり、建物内の快適さはよく実感できました。温かい中、パソコンが使用でき、カフェもあって、ゆったりとしたソファや床に座ってくつろぐこともお喋りすることもでき、もちろん集中して勉強することもできれば、ここに来ようと思うものなのでしょう。なお、立地はいずれもキャンパス入り口近く、とてもアクセスのよい場所でした。青く目立つ



グラスゴー・カレドニアン大学 Level 2 自由な雰囲気の閲覧席

建物（なぜか2施設とも外装は青色基調）に、学生が吸い込まれるように入っていく感じでした。

・カフェ

どちらの施設にもLevel 0にカフェがありました。シェフィールド大学は、広島大学のマーメイドカフェのような感じで、階も区画も学習エリアとは完全に別になっていました。店内は明るくおしゃれな雰囲気です。カフェに設置されたデスクトップ・パソコンで自由に情報検索ができ、勉強の合間の休憩や待ち合わせ場所としても利用されていました。



シェフィールド大学 カフェにてランチ
(左からDr.Tom McAuley, 日野, Gill Goddard女史, 和田)

・学生とのコミュニケーション

2施設とも学習スペースの拡張やセルフサービス化（自動貸出・返却）により、職員が利用者と直接話す機会や場所が大幅に減ったそうです。その対策として、顔写真入りの名刺を作成し声をかけてもらいやすい工夫や、メールやブログ、Twitterなどを利用し、学生とのコミュニケーションを深める努力をされています。



シェフィールド大学 模擬ガイダンス終了後
(左から鳥取大学 津村氏, 日野とスタッフの方々)

・情報リテラシー教育

2大学では、コモンズ内の1室で講習会やセミナーなど、学生の学びのサポートを行っています。シェフィールド大学では、新入生向けに用意されているガイダンスを模擬受講させていただきました。学生参加型のプログラムは幼稚になりすぎず、参加した学生が楽しめる工夫が多くありました。また、2大学とも場所を問わず学習できるオンライン教材を効果的に活用しており、今後の利用教育の参考になりました。

広島大学のラーニングコモンズ<BIBLA>

現在のBIBLAは、満員御礼、大盛況の日々です。学生の口から「BIBLA」という単語がすんなり出るようにもなりました。中央図書館では、「今日どこで勉強する?」「BIBLA? 普通のところ(閲覧席)? パソコン要る? 要らん?」というような学生の会話をよく耳にします。グループでの話し合いや、友人とお喋りが必要な時もあり、1人で勉強しないとはかどらないレポートもあります。今では学生が勉強する環境を自由に選べるようになりました。これからも2大学の図書館のように、「変える」ことを恐れず、学生の生の声や図書館利用者アンケート等を通して、広く意見を聞いていけたらと思います。

なお、中央図書館玄関ロビーの「メディアセンターのICE 端末利用状況」ライブは、シェフィールド大学にヒントを得たものです。



学生と図書館員の絆を感じるマグカップ
(シェフィールド大学)

以上、英国のラーニングコモンズで見てきたこと、感じたことなどを簡単に報告しました。どこの図書館でも多くの利用者が思い思いの形で、図書館を、ラーニングコモンズを利用していました。ところで、オックスフォード大学ボードリアン図書館では、鎖で書架に繋がれた本を見学してきました。本を読むためには書架まで行かなければならなかった様子の保存展示で、これが大学図書館初期の図書閲覧の形だそうです。昔々、本は知識の詰まったとても大事なもので、守らなければいけないものでした。それから現在のラーニングコモンズまで、図書館で本を見る、学習する形は大きく変化してきたのだと実感した研修でした。

最後に、今回の研修の機会を与えていただいた国立大学図書館協会、広島大学後援会をはじめとした関係各署の方々、現地図書館で暖かく受け入れていただいた方々、および広島大学図書館と鳥取大学附属図書館の皆さまに感謝いたします。なお、本報告は『大学図書館研究』92号(2011.8)へ詳しく掲載しております。その他、『LIAISON』vol.35(2010.10)に国内既存施設の見学報告があります。あわせてご参照ください。

研究開発室より

研究開発室活動報告

助教 川和田 晶子

2010年4月に着任してから、研究開発室業務の三本柱となる①特別集書（貴重資料室・和装資料室収蔵本）の整理並びに目録作成、②図書館主催の諸行事のバックアップ、③講習会等を通して、図書館職員への専門知識の伝授、を行う以外に、特別集書の保存環境を向上・維持するため保存科学を導入するといった、広島大学図書館の資料保存と維持、貴重資料の公開と活用のための積極的な活動を行っています。2011年前半は、加えて図書館情報学、データベース作成とアーカイブ化に関する教育活動、科学研究費補助金による個人の研究課題の遂行も開始しました。

〔2010年度の主な活動〕

- 展示会企画：平成22年度オープンキャンパス企画展示「世界へのまなざしー幕末・明治の日本人」〔会期：8月8日～9月3日〕、ホームカミングデー企画展示「伝統科学へのいざないーじゃぱにーず・さいえんすー」〔11月6日～30日〕 共に広島大学地域・国際交流プラザにて開催
- 講演会：広島市立図書館・広島大学図書館連携事業講演会 「知の冒険 タイムマシン『図書館号』」
演題は「江戸の暦ー陰陽道から観測科学までー」〔開催：12月4日〕
- 学会発表：第51回中国四国地区大学図書館研究集会【研究発表・実情報告】「古典籍の保存と公開：広島大学図書館での取り組み」中国四国地区大学図書館協議会〔開催：10月14日〕
- 研修：国文学研究資料館主催 平成22年度アーカイブズ・カレッジ 資料管理学研修会 短期コース参加〔開催：11月8日～19日〕
- 保存科学：平成22年度の学長裁量経費により、貴重資料室と和装資料室の空調を整備してデータロガーを設置し、室温・湿度の恒久的な計測を開始〔開始時期：2011年2月～〕

〔2011年度前半の主な活動〕

- 教育活動：教養教育 平成23年度情報活用基礎講義担当 「情報アーキテクチャー入門ーデジタルアーカイブの構築と情報の流通・活用ー」〔2011年度前期/総合科学部〕
- 出版：「情報アーキテクチャー入門ーデジタルアーカイブの構築と情報の流通・活用ー」『新・情報リテラシー教科書』pp.107-114、学術図書出版社、2011年4月
- 展示会企画：平成23年度オープンキャンパス企画展示「地球浪漫散歩ー19世紀の視覚と好奇心ー」〔会期：2011年8月8日～9月9日〕 広島大学地域・国際交流プラザにて開催
- 学会発表：国際18世紀学会第13回大会
演題は“The Change of Japanese Time Consciousness in the End of the 18th Century”
オーストリア グラーツ大学
〔2011年7月29日〕
- 個人研究：科学研究費補助金 基盤研究(C)
「近世日本天文学史の基礎的研究」
〈研究課題番号23501201〉〔2011年4月～〕



貴重資料室内に設置したデータロガー

平成22年度 図書館活動報告

学習・教育支援

1) 学習環境の整備

中央図書館 ラーニングコモンズ（BIBLA）の運用開始
 学生用端末の増設と利用状況表示装置を設置
 総合案内カウンターにメディアセンターの窓口併設
 グループ学習室の防音工事を実施

霞図書館 閲覧室の拡張・改修、学生用端末の増設

→入館者数：中央図書館503千人（前年比9.6%増）

霞図書館181千人（前年比24%増）



中央図書館BIBLA

2) 学生用図書整備

学生選書グループによる選書を実施

音楽配信サービス（NAXOSミュージックライブラリ）の導入

3) 図書館ガイダンス・各種講習会

新入生オリエンテーション、教養ゼミ、院生・新任教員・留学生向けの各ガイダンス、レポート・論文のための資料の探し方、企画講習会、オンデマンド講習会等を実施



霞図書館



講習会

プログラム		回数	参加者(人)
利用ガイダンス	新入生	75	5,708
	新入生外	25	592
文献検索ガイダンス		22	109
その他ガイダンス		31	447
計		153	6,856

学術・研究支援

1) 電子ジャーナル等の選定

バックファイル：RSC、ゴールドスミス・クレス文庫所蔵社会科学文献集成

2) 図書週及入力

国立情報学研究所週及入力事業経費採択、学内事業と併せて約6万冊を処理

3) 書庫内資料の再配置 分散資料の統合

4) 貴重資料・和装資料の保存環境整備 データロガーの設置

5) eDDSの導入（H23稼働）

6) ILL料金電子マネー決済の導入（H23稼働）

7) 図書館シンポジウムの開催

「学術情報流通の危機を考える：電子ジャーナル・出版・機関リポジトリの現在と未来」（11月）「図書館著作権セミナー」（3月）

8) 広島大学学術情報リポジトリ事業

登録数約2万件、DL数約56万件、H22から学内事業経費を確保

ダウンロード数通知サービス開始、広報誌の発行

9) 広島大学出版会新刊5点発行

「方言の山野を歩く－藤原文庫目録－」

「われらユダヤ系ドイツ人

－マイノリティから見たドイツ現代史1893-1951－」

「ドイツ統一と教育学の再編－東ドイツ教授学の歴史的評価－」

「中国高等教育の拡大と大卒者就職難問題－背景の社会学的検討－」

「確率・統計の数学的基礎」



電子マネー決済の導入



シンポジウム

「学術情報流通の危機を考える」



出版会新刊



図書館著作権セミナー

地域貢献・国際交流

1) 地域国際交流プラザでの展示・イベントの開催

企画展10回開催 入場者数：12,347人（前年比21%増）

2) 公共図書館連携

相互貸出：広島市立図書館（継続）、広島県立図書館・東広島市立図書館（新規）

公開講演会等：講演会「知の冒険タイムマシン『図書館号』」（広島市立図書館連携事業）、情報検索講習会（地域医療情報機関）

3) 共同リポジトリ普及事業

国立情報学研究所CSI委託事業。代表機関として、他大学と連携し、全国の地域リポジトリ普及活動（モデル構築と人材育成）を実施し、H22までに全国8つの共同リポジトリがスタート。

4) 資料の寄贈

ベトナム国家大学ホーチミン市校に図書279点を寄贈。

5) 広島大学図書館活動助成金（寄付金およびフレンドリー利用）

受付件数・寄附金額

86件、891,000円（前年比 34%増）

地域国際交流プラザ展示（開催月、主催）
世界のLOVE写真展（4月 学生）
文明と自然研究プロジェクト活動報告（5月 研究科）
第5回原爆と戦争展（5-6月 地域）
第4回東広島観光展（6-7月 地域）
上海万博写真展（7月 留学生）
世界へのまなざしー幕末・明治の日本人ー（8月 図書館）
酒まつり知っ得コーナー～地域文化を知る～（9-10月 地域）
伝統科学へのいざないーじゃばにーずさいえんすー（11月 図書館）
鈴木三重吉と「赤い鳥」（12-1月 地域）
広島大学アクリル水彩同好会卒展（2月 学生）



世界のLOVE写真展



第5回原爆と戦争展



第4回東広島観光展

管理・運営

1) 第一期中期計画期間の総括を実施

2) 図書館利用者アンケートの実施（H18から継続）

3) 学生と図書館長の懇談会実施（1月 4名参加）

4) 職員の研修

長期派遣：国際基督教大学図書館へ1名、1年間派遣

英国インフォメーションコモンズ訪問視察（国大図協海外派遣事業1名、広島大学後援会助成1名）

6) 国立大学図書館協会地区理事館

地区総会（4月）、地区助成事業講演会「電子書籍と大学図書館」（1月）開催

7) 中国四国地区大学図書館協議会 幹事館

地区総会（4月）、大学図書館研究集会「教員との連携による元気な図書館の作り方」（10月）開催

8) 広島県大学図書館協議会 代表幹事館

総会（6月）、研修会開催



講演会「電子書籍と大学図書館」

広島大学図書館統計

入館者数

	H19	H20	H21	H22
中央図書館	391,537	440,330	461,238	505,203
東図書館	108,946	106,789	102,208	101,874
西図書館	397,956	378,760	374,596	326,240
霞図書館	133,688	168,193	145,928	186,285
東千田図書館	94,371	104,949	127,110	112,689
計	1,126,498	1,199,021	1,211,080	1,232,291

貸出冊数

	H19	H20	H21	H22
中央図書館	89,684	93,857	95,474	94,107
東図書館	21,039	20,358	17,415	15,759
西図書館	35,308	35,215	35,962	33,250
霞図書館	23,067	23,405	24,677	27,306
東千田図書館	8,986	10,064	12,329	12,506
計	178,084	182,899	185,857	182,928

学外利用者貸出冊数

	H19	H20	H21	H22
中央図書館	4,880	5,320	5,368	5,516
東図書館	458	844	951	752
西図書館	938	1,022	1,299	1,508
霞図書館	1,314	1,441	1,526	2,080
東千田図書館	1,226	1,167	1,502	1,815
計	8,816	9,794	10,646	11,671

文献複写（受付・依頼）

	H19	H20	H21	H22
中央図書館（受付）	3,560	3,689	3,240	2,762
（依頼）	6,472	6,992	5,115	5,101
東図書館（受付）	720	579	341	360
（依頼）	0	0	0	0
西図書館（受付）	521	485	410	334
（依頼）	0	0	0	0
霞図書館（受付）	3,160	3,087	2,314	2,498
（依頼）	3,399	2,510	2,343	2,609
東千田図書館（受付）	61	93	51	80
（依頼）	842	1,412	630	708
計（受付）	8,022	7,933	6,856	6,034
（依頼）	10,713	10,214	8,088	8,418

相互貸借（貸出・借受）

	H19	H20	H21	H22
中央図書館（貸出）	1,065	1,057	1,352	1,311
（借受）	1,640	1,704	1,499	1,639
東図書館（貸出）	151	159	154	137
（借受）	151	149	125	98
西図書館（貸出）	389	358	489	418
（借受）	298	244	229	279
霞図書館（貸出）	190	233	287	249
（借受）	514	393	455	443
東千田図書館（貸出）	246	325	309	393
（借受）	621	641	481	686
計（貸出）	2,041	2,132	2,314	2,508
（借受）	3,224	3,131	2,427	3,145

蔵書数（図書）

	H19	H20	H21	H22
中央図書館	2,140,865	2,150,501	2,235,724	2,196,494
東図書館	350,339	352,455	348,036	346,085
西図書館	580,159	582,767	586,684	591,027
霞図書館	225,318	207,273	138,543	197,368
東千田図書館	28,318	31,893	33,993	36,744
計	3,324,999	3,324,889	3,342,980	3,367,718

蔵書数（雑誌）

	H19	H20	H21	H22
中央図書館	33,452	30,148	33,965	35,248
東図書館	10,188	9,627	10,378	10,007
西図書館	4,071	3,884	4,095	4,213
霞図書館	8,840	8,290	8,729	8,726
東千田図書館	947	772	1,645	877
計	57,498	52,721	58,812	59,071

電子ジャーナル

	H19	H20	H21	H22
契約数	9,930	10,763	12,002	12,988
ダウンロード数	555,217	639,219	741,471	959,410

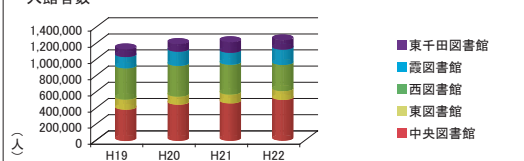
学術情報リポジトリ

	H19	H20	H21	H22
コンテンツ数	14,513	17,710	20,257	22,422
ダウンロード数	123,897	352,688	454,687	635,019

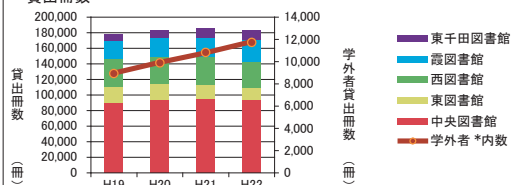
資料購入費

	H19	H20	H21	H22
和図書	162,497	152,752	155,097	140,855
洋図書	116,268	94,230	89,586	69,727
和雑誌	38,494	43,178	43,197	38,115
洋雑誌	149,741	143,374	124,414	87,931
電子資料	263,018	270,589	328,682	315,353
製本	13,354	13,392	12,739	12,391
計	743,372	717,515	753,715	664,372

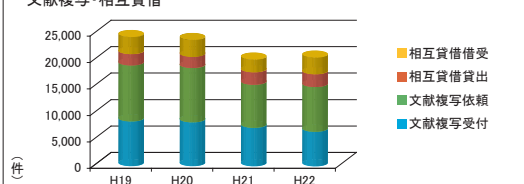
入館者数



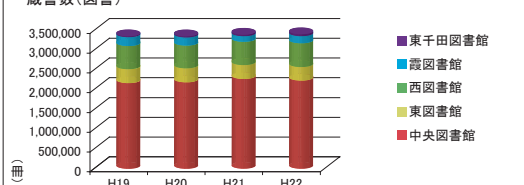
貸出冊数



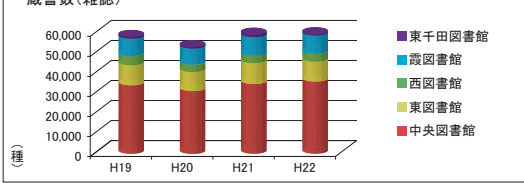
文献複写・相互貸借



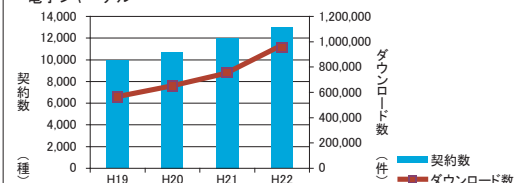
蔵書数（図書）



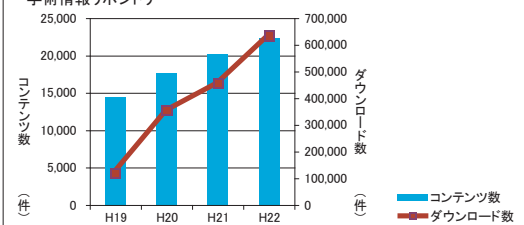
蔵書数（雑誌）



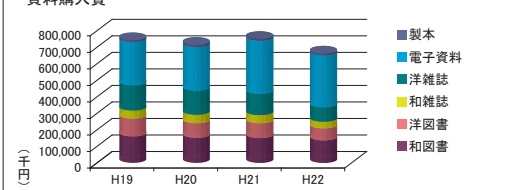
電子ジャーナル



学術情報リポジトリ



資料購入費



図書館日誌（2010.4～2011.3）

- 4月
 - 12日 霞図書館新装披露式
 - 23日 中央図書館ラーニングコモンズ披露式
- 5月
 - 20日 図書系専門試験委員会
 - 24日 第1回広島大学出版企画部企画委員会
 - 28日 広島県大学図書館協議会幹事館会議・研修企画委員会
- 6月
 - 4日 中国四国地区学術情報・図書館・情報環境部長会議
 - 28日 第1回図書館運営戦略会議
 - 30日 広島県大学図書館協議会総会（広島工業大学）
- 7月
 - 4日 図書系職員専門試験（～5日）
 - 11日 職員研修室の書庫改装工事
- 8月
 - 3日 監査法人図書プロセスヒアリング（～4日）
 - 8日 オープンキャンパス（～10日）、企画展示「世界へのまなざしー幕末・明治の日本人ー」（～9月3日）
 - 12日 夏期一斉休業に伴う閉館（～16日）
- 9月
 - 22日 避難訓練
 - 29日 広島県大学図書館協議会 永井伸和氏講演会「本の学校への道」（広島県立図書館）
- 10月
 - 14日 中国四国地区大学図書館研究集会「教員との連携による元気な大学図書館の作り方」（～15日 広島大学学生会館）
 - 17日 霞図書館蔵書点検
 - 26日 東千田図書館蔵書点検
- 11月
 - 6日 ホームカミングデー企画展示「伝統科学へのいざないーじゃばにーず・さいえんすー」（～30日）
 - 16日 永年勤続者表彰
 - 18日 第46回日本医学図書館協会中国・四国地区総会（～19日）
 - 18日 DRF地域ワークショップCity_Of_Hiroshima（広島経済大学）
 - 29日 シンポジウム「学術情報流通の危機を考える」
 - 29日 英国大学図書館インフォメーションコモンス見学（～12月4日 グラスゴーカレドニアン大学、シェフィールド大学、オックスフォード大学、英国図書館）
- 12月
 - 4日 広島市立図書館・広島大学図書館連携事業講演会「知の冒険 タイムマシン『図書館号』」（広島市立図書館）
 - 13日 第2回図書館運営戦略会議
 - 13日 国立大学図書館協会人材委員会人材政策デザイングループ会議
 - 20日 クリスマスコンサート
- 1月
 - 6日 和装資料室空調工事（～31日）
 - 17日 学生と館長との懇談会「図書館長と語ろう2011」
 - 27日 国立大学図書館協会地区助成事業講演会「電子書籍と大学図書館」（岡山大学）
- 2月
 - 15日 日本医学図書館協会継続教育コース実行委員会
 - 25日 館内海外研修報告会
- 3月
 - 9日 図書館著作権セミナー
 - 15日 第3回図書館運営戦略会議
 - 24日 藤原文庫目録刊行記念セレモニー
 - 28日 特別資料室書架設置（～29日）



中国四国地区大学図書館研究集会

広島大学図書館「リエゾン」 Vol.36 2012年2月28日 発行
 発行 広島大学図書館 〒739-8512 東広島市鏡山1丁目2-2
 電話 (082)424-6200
 編集 広島大学図書館広報ワーキンググループ